

白ネギの周年栽培による収益向上と機 械導入による省力化を目指して

米子市  吉岡陽一

1. はじめに

私は鳥取西部農協において、弓浜営農センター長、特産課長等の役職に就き、弓浜特産野菜に長らく関わってきた。定年退職後は地元で白ネギを中心に甘藷、スイートコーンの栽培に取り組んでいる。とくに白ネギ栽培においては、現在、栽培面積が60aながら、安定した経営をおこなえている。

数年前から長男を常時雇用することとなり、労働力が増加したため、さらなる農業所得の増大が必要となってきた。そこでとくに収益の高い白ネギにおいて、栽培規模の大幅な拡大といっそうの品質向上による農業所得の増大を目標に、このプランに取り組みたいと考えている。

一方、私が住む地域では高齢化や後継者不足の問題から、若い担い手が非常に不足しており、農地の維持や管理が難しくなっている。自己の栽培規模の拡大のためには農地中間管理事業等を活用し、農地を借り受けていきたいと考えている。また、農地を借り受けることで、近隣農地の耕作放棄地の発生防止・減少にも貢献できればと考えている。

近い将来、長男に後継者として農業経営を引き継がせ、私自身は若い担い手の育成や農業を通じた地域貢献に励みたいと考えている。

近年、小学校のネギ栽培の出前授業や保育園のさつまいも栽培等を行っている。これらの活動を今後、継続・拡大していき、一人でも多くの子どもたちが、農家を目指すきっかけとなり、崎津の地域農業が発展するよう尽力していきたいと思う。

2. 現在の経営状況

・労働力について (H29 現在)

氏名	年齢	続柄	担当業務	年間農業従事日数 (日)
吉岡陽一		本人	全般	330
			全般	330
			全般	330

・主な農業機械・施設

機械・施設名	台数	詳細	導入年次
トラクター	1	13ps	不明 (中古)
管理機	2	一台は仕上げ専用	H24 (平成24年度弓浜農業 未来づくりプロジェクト事業) H28
軽トラック	2		H19、H28
ネギ皮剥ぎ機	1		不明
動力噴霧器	1		不明
ビニールハウス	1	120㎡ (6m×20m)	H27 (平成27年度鳥取型低 コストハウス支援事業)
定植機	1	共同購入	H26
スプリンクラー	2		不明
剪葉機	1	共同購入	H29
土壌消毒機	1	共同購入	H29

・経営面積 (H28)

作目・部門	作付面積
秋冬ネギ (1~2月)	20a
春ネギ (3~5月)	25a
夏ネギ (トンネル栽培)	4a
夏ネギ (露地栽培)	3a
秋冬ネギ (年内取り)	10a
甘藷	20a
スイートコーン	10a
合計	92a

※うち所有地50a、親族等から借入
地42a

・農業収入内訳 (H28)

作目	生産量
白ネギ	6336ケース
内訳	
秋冬ネギ (1~2月)	2407ケース
春ネギ (3~5月)	2123ケース
夏ネギ (トンネル、露地)	602ケース
秋冬ネギ (年内取り)	1204ケース
その他	
合計	

・作業体系の一例（秋冬ネギの場合）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
播種	●	—	●									
育苗		●	—	—	●							
圃場準備			土壌消毒、元肥等散布			緑肥耕作（前年）						
定植					●							
栽培管理					畝上げ、防除、施肥、除草等							
収穫	—	●										●

3. 将来の経営展望

① 生産基盤について

白ネギの栽培規模を60aから120aに拡大し、機械、施設の充実を図り、近い将来、長男に引き継げる農業生産基盤を整え、5年後の平成34年の年間農業所得 XXXXXXXXXX 円を目指す。

② 地域の担い手として

農協や農業試験場、各メーカー等の関係機関と連携をとり、最先端の栽培技術を取得し、品質向上を図り、反収を高めるとともに、生産者のリーダー的役割を担う。

③ 農地の保全について

耕作放棄地や遊休地、また高齢化等により離農された生産者の農地を積極的に借り入れ、栽培面積の拡大を図りながら地域の農地保全につとめる。

4. 現状の課題と改善対策

① トラクターについて

所有するトラクターは馬力が小さく、栽培規模を拡大するにあたり非効率なうえ、時間がかかりすぎる。また好天時には作業が集中し、収穫作業や管理作業（消毒や畝上げ等）を優先することが多いため、トラクターの使用時は悪天候（猛暑等も含む）が多く、キャビンの必要性を強く感じる。さらに耕作地の耕転だけでなく、飛砂による整地、緑肥の粉碎、耕作放棄地等の開墾作業等にもトラクターは使用機会が多く、規模拡大には高馬力、高性能（バケット、フレールモア等）のトラクターの導入が必要不可欠である。

② 収穫作業について

現在、収穫は手作業で行っており、収穫における作業時間は野外での作業時間の大半を占める。規模拡大には収穫時間の短縮が課題である。また圃場での作業時間が長いため、酷暑や厳寒時には大きな疲労が伴ってしまう。冬季には日長が短いうえに、悪天候の日が多いため、限られた時間で収穫作業を行わなければならない、ひとたび収穫するネギが降雨や朝露で濡れてしまうと、その後の調整作業の効率が圧倒的に落ちる。そこでハーベスタの導入が収穫時間の短縮と効率化、また疲労軽減には必要である。

③ 育苗について

現状の60aから5年後120aへ白ネギの栽培面積を拡大するにあたっては、現在、所有している育苗用のビニールハウスが手狭になることから、(現在でも夏ネギと秋冬ネギの育苗期である1, 2月にはビニールハウスの隅々まで苗が並ぶ)ビニールハウスの増棟が必要となる。

④ 調整作業について

調整出荷を行う作業場が狭く、効率が悪いだけでなく、物を跨いだりすることも多いため安全に作業をすることにも支障がある。パート雇用等で人員を増やすことを視野に入れると作業場の拡大とともに手洗い場、トイレ等の設備の充実も必要となる。作業場の整備していき、必要となれば将来的には、作業場の拡大か新規の作業場の建設、もしくは空き作業場等の借入が必要となってくる。

5. 農業経営の計画

① 労働力計画

	H29	H30	H31	H32	H33	H34
本人	2640時間 (330日)	2640時間 (330日)	2088時間 (261日)	2088時間 (261日)	1904時間 (238日)	1904時間 (238日)
	2640時間 (330日)	2640時間 (330日)	2640時間 (330日)	2640時間 (330日)	2456時間 (307日)	1904時間 (238日)
	2640時間 (330日)	2640時間 (330日)	2088時間 (261日)	2088時間 (261日)	1904時間 (238日)	1904時間 (238日)
パート等			1104時間 (138日)	1104時間 (138日)	1656時間 (207日)	2208時間 (276日)

② 経営耕地計画

	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
耕作地 (うち白ネギ耕作地)	92 a (62 a)	110 a (80 a)	120 a (90 a)	130 a (100 a)	135 a (110 a)	145 a (120 a)	145 a (120 a)
休閑地 (緑肥等)	0 a	10 a	20 a	20 a	20 a	20 a	30 a
合計	92 a	120 a	140 a	150 a	155 a	165 a	175 a
うち所有地	50 a	50 a	50 a	50 a	50 a	50 a	50 a
うち借入地	42 a	70 a	90 a	100 a	105 a	115 a	125 a

※借入地には親族等からの借地を含む

③ 生産計画・収支計画

		H28 (現状)	H29 (見込)	H30	H31	H32	H33	H34
秋冬ネギ 1～2月	面積 (アール)	20	20	20	20	30	30	30
	生産量 (ケース)	2,407	2,376	2,000	2,000	3,000	3,000	3,100
春ネギ 3～5月	面積 (アール)	25	25	30	30	30	30	30
	生産量 (ケース)	2,123	3,214	3,000	3,000	3,000	3,100	3,100
夏ネギ 6～9月	面積 (アール) <small>※カッコ内はトンネル栽培</small>	7 (4)	20 (10)	25 (10)	30 (10)	30 (10)	30 (10)	30 (10)
	生産量 (ケース)	602	2,386	2,500	3,000	3,000	3,000	3,000
秋冬ネギ 年内取り 10～12月	面積 (アール)	10	15	15	20	20	30	30
	生産量 (ケース)	1,204	1,793	1,500	2,000	2,000	3,000	3,100
その他 (甘藷、スイートコーン等)	面積 (アール)	30	30	30	30	25	25	25
	生産量	/	/	/	/	/	/	/
合計	作付面積	90	110	120	130	135	145	145

※端数の関係で、合計が一致しない場合があります。

④ 具体的な取組と役割分担

項目	H30	H31	H32	H33	H34	連携機関
経営面積の拡大	○	○	○	○	○	本人・機構・市等
白ネギ作付面積の拡大	○	○	○	○	○	本人
トラクター（キャビン付き）の導入 （24ps） （ローダー、フレールモアを含む）	◎					県・市・本人
ハーベスタの導入	◎					県・市・本人
育苗ハウスの導入		◎				県・市・本人
作業場の整備	○	○	○	○	○	本人
新品種の試作	○	○	○	○	○	本人
年間労働時間の削減		○	○	○	○	本人
臨時雇用の拡大		○	○	○	○	本人

◎…がんばる農家プラン事業を活用

⑤ 導入計画

	H30	H31	事業費 (千円)	負担額 (千円)		
				県	市	事業実施主体
トラクター	○		4,481	1,493	747	2,241
ハーベスタ	○		4,097	1,365	683	2,049
育苗ハウス		○	1,557	519	259.5	778.5